

主 専 攻 プ ロ グ ラ ム 詳 述 書

開設学部（学科）名〔教育学部第四類（生涯活動教育系）人間生活系コース〕

プログラムの名称（和文）	人間生活教育プログラム
（英文）	Human Life Sciences Education

1. プログラムの紹介と概要

人間生活教育プログラムは、人間生活教育の原理、内容、方法について専門的な素養と教育実践力を有したうえで、理論と実践が融合した教育研究を行うことができる中学校・高等学校教員（家庭）の養成を目的としている。併せて、教育関係機関・施設等において人間生活教育に関連する業務に携わる専門の職員の養成も目指している。そのために、本プログラムでは、教育に関する基礎的な理論、中・高等学校家庭科の内容及び家庭科教育の領域を深く関連づけて学習し、中等教育に携わるうえで必要な知識と技術を習得できるように工夫されている。

卒業後は、さらに高度な専門性を追究するために、大学院（博士課程前期・後期）に進学し、研究者や高度な専門知識をもつ職業人を目指す道も開かれている。

2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

プログラム開始（選択）時期は、1年次である。

3. プログラムの到達目標と成果

（1）プログラムの到達目標

本プログラムの到達目標は次のとおりである。

- 1) カリキュラム全体を通じて、時代の変化に対応できる自立した生活者としての生き方や、新しい家庭生活および人間生活環境の創造に関する教育と実践をなし得る能力が身につく。
- 2) そのために、家庭を中心とした人間生活における人の行動や行為を、物的環境、精神的環境、身体的環境さらには社会的環境という様々な視点で考えさせる専門基礎科目および専門科目を通して、自己研修能力に優れた指導的な中学校・高等学校の家庭科教員としての能力を身につける。
- 3) 家庭科教員養成と併行して、生活全般に関する知識と素養を身につけ、関連の一般企業や研究機関で活躍できる能力を獲得する。専門基礎科目を土台として、専門科目から関心に応じて科目を選択することによって目標を達成できるように学習する。

本プログラムにおける教養教育の到達目標は次のとおりである。

価値観の多様化や社会構造の変化に柔軟に対応し、なおかつ教育界に生じる新たな課題に的確に対処できる広い視野と実行力を備えた人間的、社会的素養を身につけることを目標としている。そのためには、自然的環境や社会的環境における客観的事実やその多面性を十分に理解するとともに、歴史的変遷によるさまざまな現象の変化を概観し、大局に立ったものの見方を身につける学習を行う。さらに、人類が築き上げてきた知の蓄積を理解し、人類が直面する課題の所在を的確に把握し、さまざまな専門的、

学際的な知識を個別にあるいは総合的に活用して、これを解決する能力を身につける。

(2) プログラムによる学習の成果 (具体的に身につく知識・技能・態度)

○知識・理解

- 1) 中等学校とその教育に関する基本的知識
- 2) 生涯活動教育に関する学際的・総合的な基本的知識
- 3) 青年期の子どもに関する基礎的知識と現代的課題の理解
- 4) 人間生活系教育の理論と方法に関する基本的知識
- 5) 人間生活系内容領域の理論と方法に関する基本的知識
- 6) 人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究に関する基本的知識と社会的課題の理解

○知的能力・技能

- 1) 中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を収集し、読解し、結論を導き出すことができる。
- 2) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、分析・検討し、問題点を把握し、解決策を導き出すことができる。
- 3) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、文献や資料を吟味・検討し、解決策を導き出すことができる。
- 4) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる。
- 5) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。
- 6) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。

○実践的能力・技能

- 1) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを分析し、デザインし、立案することができる。
- 2) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を分析し、開発することができる。
- 3) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を身につけることができる。
- 4) 中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を計画・設計し、実行して、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。

○総合的能力・技能

- 1) 個人やチームにおいて、特定の事象から課題を発見した後、調査・実験等の研究を企画・立案し、効果的に資料収集・実験等を実行し、その成果をまとめることができる(研究力)。
- 2) 研究や教育活動、および発表において、コミュニケーションを確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いてプレゼンテーションすることができる(コミュニケーション・プレゼンテーション力)。
- 3) 情報活用のモラルと基礎知識を持ち、インターネット、データベース、表計算、ワープロといったITを使用することができるとともに、ITを用いて、基礎的な統計処理や表現・情報発信ができる(IT

活用力)。

4)多くの人々と協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている(社会性・協同性)。

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類, 必要な単位数)

本プログラムが提供する学位は, 学士(教育学)である。その取得には, 本プログラムにて実施される授業科目を選択履修することによって修得する128単位を条件としている。単位数の内訳: 教養教育40単位, 専門基礎科目24単位, 専門科目28単位, 自由選択科目30単位, 卒業研究6単位。

(2) 得られる資格等

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより, 中学校教諭一種免許(家庭)・高等学校教諭一種免許(家庭)を取得できる。

教育プログラムの所定の科目を修得することにより, 二級建築士受験資格(実務経験1~2年を必要とする)・フードスペシャリスト受験資格を取得できる。

特定プログラムを追加して修得すると, 学芸員, 社会教育主事, 学校図書館司書教諭などの資格も取得可能である。

(3) プログラムの構造

人間生活教育プログラムは, 教養教育のほかに, 専門基礎科目と専門科目から成り, 卒業研究を履修することによって達成される構造になっている(別紙2)。教員免許取得希望者は教職科目と教育実習を履修する必要がある。

第1学年(1・2セメ)では専門教育を受ける準備段階として教養科目の学習が中心となる。専門基礎科目を1科目, 専門科目を3科目学習する。第2学年(3・4セメ)では専門教育の基礎段階として専門基礎科目を中心に各分野の専門科目を学習する。教員免許取得希望者は教職科目を履修する。第3学年(5・6セメ)では専門教育の発展段階として専門科目を中心に学習する。教員免許取得希望者はひきつづき教職科目を履修し, 中学校及び高等学校教員免許取得希望者は教育実習を履修する。

以上の授業科目の履修をふまえて本プログラムの到達点としての総合的知識・態度・技能を獲得するのが第4学年(7・8セメ)の卒業研究である。高等学校教員免許のみ取得希望者は教育実習を履修する。

(4) 卒業論文(卒業研究) (位置付け, 配属方法・時期等)

人間生活系教育領域である家庭科系教科教育, 生活経営学内容領域, 人間発達科学内容領域, 住居学内容領域, 食物学内容領域, アパレル科学内容領域から1研究領域を選択し, 卒業論文指導教員の指導の下, 各自が選択する研究テーマに即して研究を進め, 4年次10月の所定期日に研究テーマを, 1月末には卒業論文を提出する。

○配属時期と配属方法

3年次前期中に, 卒業論文指導教員を決め, 主要な研究領域を選択する。3年次後期以降, 必要な授業科目のほか, 主要な研究領域の学習を深め, 4年次に卒業論文作成を行う。

5. 授業科目及び授業内容

別紙3を参照し、シラバスは、「My もみじ」又は広島大学公式ウェブサイト「入学案内」を参照すること。

6. 教育・学習

(1) 教育方法・学習方法

(別紙1を参照)

(2) 学習支援体制 (簡潔に箇条書きにしてください)

○教員による支援

- 1) チューター制度：1年次から3年次後期（3年次後期は卒業論文に関する部分の指導を除く）までは、学年チューターが指導する。
- 2) 卒業論文：3年次後期（卒業論文に関する部分の指導）および4年次は、指導（予定）教員が指導する。
- 3) プログラム教員会：主として人間生活教育学講座の教員が当たり、学生の学習支援体制を作る。
- 4) 講座支援室：人間生活教育学講座が、本プログラムにおける教育の支援に当たる。（連絡窓口は、人間生活教育学講座事務補佐員（教育学部B棟7階716号室）である。）

7. 評価（試験・成績評価）

(1) 到達度チェックの仕組み

○個人成績

- 1) 授業科目ごとの成績は、秀、優、良、可及び不可で判定する。
- 2) 授業科目ごとの成績は、所定の計算法により、GPAとして累積する。
- 3) 学年ごとに、GPAを算出し、個人の基本成績レベルが確認できるようにする。
- 4) 各学年で、評価項目ごとに、到達度を確定し、個々の達成水準を明示する。

○成績評価

- 1) 1年次、2年次、3年次には、取得単位数と成績達成目標水準により、次年次への進級状況を判断する。
- 2) 1年次、2年次の未達成者は、仮進級とし、問題点と課題が提示される。本来の水準に達したときに、正式な進級と判断する。3年次の未達成者の進級は認めない。
- 3) 4年次では、これまでの成績、卒業要件単位数、評価項目ごとの到達度に加味して、卒業論文の成績により、本プログラムでの総合的な成績評価が提示される。

(2) 成績が示す意味

(別紙4を参照)

8. プログラムの責任体制と評価

(1) P D C A責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action)）

本プログラムは、主として教育学部の人間生活教育学講座のスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（人間生活教育学講座の主任）にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

(2) プログラムの評価

○プログラム評価の観点

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果を評価の観点にする。教育的効果では、プログラムの実施自体における学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

○評価の実施方法

本プログラムは、上記の評価の観点にしたがい、原則として入学して4年経た年次にプログラム自体の成果を評価する。第1の教育的効果に関しては、本プログラムを学習した学生の到達率（卒業要件の充足と人間生活系中等教員資格（家庭）の充足）による評価、および、実施した教員グループによる総合的な評価によって、行われる。単位充足率とともに、教員の総合評価にもとづいて、本プログラムの到達水準まで各学生が達したかどうか、学生全体でどのような割合で達したのかを調べ、75%以上の達成率があるかどうかを点検する。

第2の社会的効果に関しては教員と研究者・専門職業人とにわけて考える。1）教員：学生の教員採用試験の合格率による評価、採用後の人間生活系教員（家庭科教員）としての成長度による評価として実施される。2）研究者・専門職業人：一般企業や研究機関において人間生活教育に関連する業務に関わる研究職・専門職への就職率、就職後の活動状況による評価として実施される。就職後の活動状況についても数年おきに調べ、量的、質的に総合的に評価する。

○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果はプログラム担当委員会において、プログラム内容の見直し、改善とともに、学生指導、各授業科目の効果を検討し、検討結果を下の学年のプログラム運営・実施に反映させる。

※担当教員リストは、別紙5を参照。

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中等学校とその教育に関する基本的知識 2) 生涯活動教育に関する基本的な知識 3) 青年期の子どもに関する基礎的な知識 4) 人間生活系教育の理論と方法に関する基本的な知識 5) 人間生活系内容領域の理論と方法に関する基本的な知識 6) 人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究に関する基本的な知識 	<p>教育・学習の方法</p> <p>人間生活系教育および人間生活系内容領域における基本的な知識・技能・態度は、中等共通専門基礎科目、人間生活系プログラム専門基礎科目と専門科目における講義、実験、実習、演習など、また各授業科目が課す自己学習、課題、レポート作成などを通して、獲得できるようにする。</p> <p>評価</p> <p>知識・理解・態度（1～6）は、各授業科目において実施する中間試験や期末試験、課題やレポートを通して評価する。</p>
---	--

○ 知的能力・技能

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を収集し、読解し、結論を導き出すことができる。 2) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、分析・検討し、問題点を把握し、解決策を導き出すことができる。 3) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、文献や資料を吟味・検討し、解決策を導き出すことができる。 4) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる。 5) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。 6) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。 	<p>教育・学習の方法</p> <p>知的能力・技能（1～6）に関する基礎的基本的部分の習得は、プログラムの各授業科目における講義、実験・実習・演習を通じて行う。また、実験・実習・演習の中で共同して行うグループ学習や討議、各自の学習、レポート作成、卒業研究などを通じて、実践的かつ総合的視点に立った問題把握能力や解決能力を身につける。さらに、卒業論文の作成を通じて、一つのテーマに関するまとまった知識の体系化とそれを基に問題を解決する能力の習得へと発展させる。</p> <p>評価</p> <p>知的能力・技能（1～6）は、講義、実験・実習・演習の課題やレポート、実験・実習・演習におけるグループ学習、討議、研究を通じて評価する。さらに卒業論文では、学生自身がこれらの能力・技能を習得し、まとまった知識の体系化および問題解決能力が身に付いたかどうかの評価を行う。</p>
---	---

○ 実践的能力・技能

身につく知識・技能・態度等 1) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを分析し、デザインし、立案することができる。 2) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を分析し、開発することができる。 3) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を身につけることができる。 4) 中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。

教育・学習の方法 実践的能力・技能（1～4）の習得は、プログラムの各授業科目における実験、実習、演習を通して、また各授業科目の課外課題遂行や生活実践を通して身に付ける。さらに、生活実践、授業実践および卒業論文作成において、実践的能力・技能を発展、熟達させるとともに、効果的に使用、発揮できるようにする。 評価 実践的能力・技能（1～4）は、特定課題の遂行の過程およびその結果で評価する。学生は、生活実践、授業実践あるいは卒業論文の作成を行い、その結果において、自分自身がどのレベルまで到達したのかを確認できるようにする。

○ 総合的能力・技能

身につく知識・技能・態度等 1) 個人やチームにおいて、調査・実験等の研究を企画・立案し、効果的に実行し、その成果をまとめることができる（研究力）。 2) 研究や教育活動、および発表において、コミュニケーションを確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いてプレゼンテーションすることができる（コミュニケーション・プレゼンテーション力）。 3) インターネット、データベース、表計算、ワープロといった IT を使用することができるとともに、IT を用いて、基礎的な統計処理や表現ができる（IT 活用力）。 4) 多くの人々と協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている（社会性・協同性）。

教育・学習の方法 総合的能力・技能（1～4）は、プログラム全体を通じて育成するが、教養的科目の教養ゼミ、情報活用演習、中等共通専門基礎科目の総合演習などを通じて重点的に身に付ける。個別の演習・実験・実習、フィールドワーク、教育実習リサーチなどを通じて上位のものに発展させ、卒業研究や論文作成の過程で、総合的能力・技能を発揮できるようにする。 評価 総合的能力・技能（1～4）は、プログラム全体において総合的に評価する。とりわけ、卒業論文作成とその発表において、学生自身がどのレベルまで達成したのかを確認できるようにする。

別紙2 主専攻プログラム モデル体系図

(専門教育における) 学習の成果	教養教育 到達目標	1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1)中等教育に関する基本的な理解ができている。			家庭科授業論Ⅰ(△)			家庭科授業論Ⅱ(△)				
2)生涯活動教育に関する基本的な理解ができている。	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題(社会のしくみと科学の在り方、知の営みの意味、いのちの重み、多様な文化間の交流や対立、自然と共生する意義など)について、多角的な視点から説明できる。	パッケージ別科目○	パッケージ別科目○	生涯発達学(△)		保育学(◎)	家族心理学(△)			
3)青年期の子どもに関する基礎的な理解ができている。	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題(社会のしくみと科学の在り方、知の営みの意味、いのちの重み、多様な文化間の交流や対立、自然と共生する意義など)について、多角的な視点から説明できる。	パッケージ別科目○	パッケージ別科目○	生涯発達学(△)						
4)中等人間生活系教育の理論と方法に関する基本的知識が身に付いている。			家庭科授業論Ⅰ(△)	家庭科教材構成論(◎)	家庭科教育方法・評価論(△)					
知識・理解	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題(社会のしくみと科学の在り方、知の営みの意味、いのちの重み、多様な文化間の交流や対立、自然と共生する意義など)について、多角的な視点から説明できる。 特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。 各学問領域が文化・社会とどのように関わっているのかについて、説明できる。	パッケージ別科目○	パッケージ別科目○	総合科目(△)	総合科目(△)	保育学(◎)	家族関係学(△)			
		領域科目(△)	領域科目(△)	領域科目(△)	領域科目(△)	生活設計論(△)	家族心理学(△)			
				生活経営学(◎)	生活経済学(◎)	家庭看護学(◎)	住居計画学(△)	家庭機械及び家庭電気(△)		
				フードスペシャリスト論(△)	アパレル素材学(◎)	食生活栄養学(◎)	住居管理学(△)			
				色彩論(△)	アパレル設計学(△)	消費生活論(△)	食品材料学(△)			
					児童保健学(△)	食品科学(△)	食品鑑別論(△)			
						アパレル管理科学(△)	調理科学(△)			
							服飾デザイン論(△)			
6)中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的な知識が身に付いている。	各科目に応じた基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を理解・習得し、説明できる。	基盤科目(△)	基盤科目(△)	基盤科目(△)	基盤科目(△)	食物学実験(△)				
				住居学(◎)	住居環境学(◎)					
				生涯発達学(△)						
	1. 多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べることができる。 2. 理念と現実の葛藤を含め、平和を妨げる種々の要因とそこでの複雑な様相について理解し、説明できる。	平和科目○	平和科目○							
	1. 外国語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。 2. 複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を理解できる。	外国語科目○	外国語科目○	外国語科目○	外国語科目○					
1)中等教育および生涯活						家庭科教育研究法(△)				

知的能力・技能	動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を収集し、読解し、結論を導き出すことができる。								
	2)人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、分析・検討し、問題点を把握し、解決策を導き出すことができる。				家庭科教育方法・評価論(△)				
	3)人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、文献や資料を吟味・検討し、解決策を導き出すことができる。		人間生活(家庭科)教育概論(◎)		家庭科授業論Ⅱ(△)	人間生活教育史(△)			
	4)中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる。		フードスペシャリスト論(△)	調理学実習Ⅰ(◎)		人間生活調査法(△)	住居設計演習Ⅰ(△)	フードコーディネーター論(△)	
	5)中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。		生活経営学(◎)			生活設計論(△)			
	6)中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。		生活経営学(◎)			生活設計論(△)			
	1. 体力・健康づくりの必要性を科学的に説明できる。 2. スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、説明できる。	健康スポーツ科目(○)	健康スポーツ科目(○)	健康スポーツ科目(○)	健康スポーツ科目(○)				
実践的能力・技能	1)人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを分析し、デザインし、立案することができる。		家庭科教材構成論(◎)						
	2)人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を分析し、開発することができる。				人間生活(家庭科)教育演習(△)				
	3)人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を身につけることができる。		色彩論(△)	調理学実習Ⅰ(◎)	アパレル設計学実習Ⅰ(◎)	保育学(◎)	住居設計演習Ⅱ(△)		
	4)中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる			設計製図(△)	調理学実習Ⅱ(△)	アパレル設計学実習Ⅱ(△)	アパレル科学実験(△)		
					インテリア計画(△)				
					服飾デザイン論(△)				
					人間生活調査法(△)				
					食品鑑別論(△)				

	研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。						食物学実験(△)		
		外国語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。	外国語科目(○)	外国語科目(○)	外国語科目(○)	外国語科目(○)			
総合的能力・技能	1)個人やチームにおいて、調査・実験等の研究を企画・立案し、効果的に実行し、その成果をまとめることができる(研究力)。	1. 基礎的な方法で資料を収集できる。 2. 特定の事象から課題を発見し、説明できる。	教養ゼミ(◎)				人間生活調査法(△)	住居設計演習Ⅱ(△)	卒業論文(◎)
	2)研究や教育活動、および発表において、コミュニケーションを確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いてプレゼンテーションすることができる(コミュニケーション・プレゼンテーション力)。	論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。	教養ゼミ(◎)	家庭科授業論Ⅰ(△)			人間生活(家庭科)教育演習(△)		
	3)インターネット、データベース、表計算、ワープロといったITを使用できるとともに、ITを用いて、基礎的な統計処理や表現ができる(IT活用力)。	1. 情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し、説明できる。 2. 情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や発信を適切に行うことができる。	情報科目(△)			情報処理(△)			
	4)多くの人々と協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている(社会性・協同性)。					調理学実習Ⅱ(△)	フードコーディネータ論(△)		
			教養科目	専門基礎	専門科目	卒業論文	(◎)必修科目	(○)選択必修科目	(△)選択科目

(2) プログラムの構造

第1学年 専門教育を受ける準備段階

コア科目 (必修には○印)

教養科目:

○教養ゼミ, ○英語: 4単位,
情報活用基礎, または情報活
用演習

専門基礎科目:

○生活経営学, 2単位

オプション科目

教養科目:

第2外国語, パッケージ科目,
領域科目 (衣食住の基礎科学,
日本国憲法, 物理学実験, 化
学実験, 生物学実験を含む),
健康スポーツ科目

専門科目:

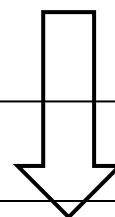
家庭科授業論 I, フードスペ
シャリスト論, 色彩論

教職科目:

中・高等学校教育実習入門

履修基準 (進級基準)

- ・教養科目を30単位以上, 取得していることを目標とする。
- ・専門科目を2単位以上, 取得していることを目標とする。



第2学年 専門教育の基礎段階

コア科目 (すべて必修)

専門基礎科目:

生涯活動教育論, 人間生活(家
庭科)教育概論, 家庭科教材構
成論, 生活経済学, 家庭看護
学, 住居学, 住居環境学, 食生
活栄養学, 調理学実習 I, ア
パレル素材学, アパレル設計
学実習 I

専門科目:

オプション科目

教養科目:

英語, 第2外国語, パッケー
ジ科目, 総合科目 (現代の消費
生活), 健康スポーツ科目

専門科目:

家庭科教育方法・評価論, 消費
生活論, 生涯発達学, 児童保
健学, 設計製図, 建築材料, 建
築一般構造, 建築構造力学 I,
食品科学, 調理学実習 II, 食
品衛生学, アパレル管理科学,
アパレル設計学, 情報処理

教職科目:

教職入門, 教育の思想と原理,
介護等体験事前指導, 教育と
社会・制度, 特別活動指導法,
生徒・進路指導論

履修基準 (進級基準)

- ・教養科目を累計36単位以上, 取得していることを目標とする。
- ・専門科目を累計38単位以上, 取得していることを目標とする。
- ・この履修基準に達しない場合, 原則として卒業研究の研究室配属を認めない。



第3学年 専門教育の発展段階

コア科目（必修には○印）

専門基礎科目：

○保育学

専門科目：

オプション科目

教養科目：

総合科目：

専門科目：

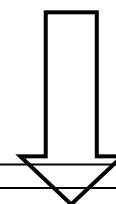
人間生活（家庭科）教育演習，
家庭科授業論Ⅱ，家庭科教育
研究法，人間生活教育史，生
活設計論，人間生活調査法，
家族関係学，家族心理学，住
居計画学，住居管理学，イン
テリア計画，住居設計演習Ⅰ，
住居設計演習Ⅱ，建築行政，
建築施工，建築設備Ⅰ，建築
設備Ⅱ，食品材料学，農産食
品学，食品鑑別論，フードコ
ーディネート論，調理科学，
食物学実験，服飾デザイン論，
アパレル設計学実習Ⅱ，アパ
レル科学実験，家庭機械及び
家庭電気

教職科目：

教育課程論，道徳教育指導法，
教育方法・技術論，児童・青年
期発達論，教育相談，教育実
習指導 B，中・高等学校教育実
習Ⅰ

履修基準（進級基準）

- ・ 教養科目を累計 40 単位以上，取得していること。
- ・ 専門科目を累計 76 単位以上，取得していること。
- ・ この基準に達していない場合，4 年生への進級を認めない。



第4学年 卒業研究を中心とした総合的知識・態度・技能の獲得

コア科目（必修には○印）

○卒業論文

オプション科目

専門科目：

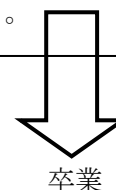
建築生産マネジメント

教職科目：

中・高等学校教育実習Ⅱ，教職
実践演習（中・高）

履修基準（卒業基準）

- ・ 卒業に必要な教養科目を 40 単位以上，取得していること。
- ・ 卒業に必要な専門科目を 88 単位以上，取得していること。



卒業

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第四類 人間生活系コース（人間生活教育プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)															
						1年次		2年次		3年次		4年次									
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ								
教養コア科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○															
	平和科目	2		2	選択必修	○	○														
	パッケージ別科目	6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○														
	総合科目	2	(注2)	2	選択必修			○	○												
	共通科目	英語 (注3)	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	自由選択	○														
				コミュニケーション基礎Ⅱ	1			○													
			コミュニケーションⅠ(注4)	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○														
				コミュニケーションⅠB	1		○														
			コミュニケーションⅡ(注4)	コミュニケーションⅡA	1			○													
				コミュニケーションⅡB	1			○													
		上記4科目から2科目以上																			
		外国語科目	コミュニケーションⅢ	コミュニケーションⅢA	1	選択必修															
				コミュニケーションⅢB	1				○	○											
				コミュニケーションⅢC	1																
	上記3科目から2科目																				
初修外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択)	ベーシック外国語Ⅰから2科目	1	選択必修	○																	
	ベーシック外国語Ⅱから2科目	1			○																
情報科目	2	(注5)	2	選択必修	○																
領域科目	(14)	すべての領域から(注6)	1又は2	選択必修	○	○	○	○													
健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○															
基盤科目(注7)	(0)		1～3	自由選択	○	○	○	○													
計	40																				

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：「現代の消費生活」の履修を要望する。

注3：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注4：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注5：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注6：・「衣食住の基礎科学」の履修を要望する。
・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。
・修得したコミュニケーション基礎、情報科目及び基盤科目の単位を算入することができる。ただし、基盤科目にあっては8単位を限度とする。

注7：「物理学実験」、「化学実験」、「生物学実験」のうちから1科目以上履修することを要望する。

学部履修基準

第四類（生涯活動教育系）

○ 人間生活系コース（人間生活教育プログラム）

科目区分等			要修得単位数	開設学部		
教養教育	教養コア科目	教養ゼミ	2	40	総合科学部ほか	
		平和科目	2			
		パッケージ別科目	6			
		総合科目	2			
	共通科目	外国語科目	英語			6
			初修外国語			4
		情報科目	2			
		領域科目	(14)			
	健康スポーツ科目	2				
	基盤科目	(0)				
専門教育	専門基礎科目	24	88	教育学部ほか		
	専門科目	28				
	専門選択科目	30				
	卒業研究	6				
合計			128			

専門教育科目履修基準

第四類 人間生活系コース（人間生活教育プログラム）

履修内容		要修得単位数	開設
専門基礎科目		24	人間生活系コース
専門 科 目	人間生活教育学	28	
	生活経営学		
	人間発達科学		
	住居学		
	食物学		
	アパレル科学		
	選択科目		
専門選択科目		30	教育学部ほか
卒業研究		6	人間生活系コース

<履修上の注意>

『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、30単位まで認める。

第四類 人間生活系コース（人間生活教育プログラム）

○印は必修

区分	授業科目	開単位 設数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考		
			1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ	5 セメ	6 セメ	7 セメ	8 セメ				
専 門 基 礎 科 目	生涯活動教育論	②				2								類共通科目
	人間生活（家庭科）教育概論	②			2								教科の指導法（家庭）	
	家庭科教材構成論	②			2								〃	
	生活経営学	②		2									家庭経営学	
	生活経済学	②			2								〃	
	保育学	②					2						保育学	
	家庭看護学	②				2							〃	
	住居学	②			2								住居学	
	住居環境学	②				2							〃	
	食生活栄養学	②				2							食物学	
	調理学実習Ⅰ	①			3								〃	
	アパレル素材学	②			2								被服学	
	アパレル設計学実習Ⅰ	①				3							〃	
専 門 科 目	人 間 生 活 教 育 学	人間生活（家庭科）教育演習	2				2						教科の指導法（家庭）	
		家庭科授業論Ⅰ	2		2								〃	
		家庭科授業論Ⅱ	2				2						〃	
		家庭科教育研究法	2					2					〃	
		家庭科教育方法・評価論	2			2							〃	
		人間生活教育史	2						2				教科又は教職に関する科目	
	生 活 経 営 学	生活設計論	2				2						家庭経営学	
		消費生活論	2			2							〃	
		人間生活調査法	2				2							
		家族関係学	2						2				家庭経営学	
	人 間 発 達 科 学	生涯発達学	2		2								保育学	
		家族心理学	2						2				家庭経営学	
		児童保健学	2		2								保育学	
	住 居 学	住居計画学	2				2						住居学	
		住居管理学	2				2						〃	
インテリア計画		2				2						〃		
設計製図		1		3								〃		
住居設計演習Ⅰ		2				2						〃		

到達目標評価項目と評価基準の表

○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 中等教育に関する基本的な理解が できている	中等教育について十分な理解を もっており、この理解に基づいてこれら の教育の問題点と課題を指摘し、さら には改善策を示すことができる	中等教育に関する理解をもち、この 理解に基づいてこれらの教育の問題点 と課題を指摘することができる	中等教育に関する基本的な理解が できている	家庭科授業論 I (2) 家庭科授業論 II (5)
2) 生涯活動教育に関する基本的な理 解ができている	生涯活動教育について十分な理解を もっており、この理解に基づいてこれら の教育の問題点と課題を指摘し、さら には改善策を示すことができる	生涯活動教育に関する理解をもち、こ の理解に基づいてこれらの教育の問題 点と課題を指摘することができる	生涯活動教育に関する基本的な理解 ができている	生涯発達学 (3) 保育学 (5) 家族心理学 (6)
3) 青年期の子どもに関する基礎的な 理解ができている	青年期の子どもに関する基礎的な理 解を十分もっており、この理解に基づ いて青年期の教育の問題点と課題を 指摘し、さらには改善策を示すこと ができる	青年期の子どもに関する基礎的な理 解をもち、この理解に基づいて青年 期の教育の問題点と課題を指摘する ことができる	青年期の子どもに関して基礎的な理 解ができている	生涯発達学 (3)
4) 中等人間生活系教育の理論と方法 に関する基本的知識が身に付いてい る	中等人間生活系教育の理論と方法に 関する基本的知識を十分もっており、 それらの理解を批判的に総合化する ことができる	中等人間生活系教育の理論と方法に 関する基本的知識をもち、それらの 理解を総合化することができる	中等人間生活系教育の理論と方法に 関する基本的知識が身に付いている	家庭科授業論 I (2) 家庭科教材構成論 (3) 家庭科教育方法・評 価論 (4)

<p>5) 人間生活系内容領域の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている</p>	<p>人間生活系内容領域の教育内容に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる</p>	<p>人間生活系内容領域教育内容に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる</p>	<p>人間生活系内容領域の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている</p>	<p>生活経営学(2) フードスペシャリスト論(2) 色彩論(2) 生活経済学(3) アパレル素材学(3) 児童保健学(3) アパレル設計学(3) 家庭看護学(4) 食生活栄養学(4) 消費生活論(4) 食品科学(4) アパレル管理科学(4) 保育学(5) 生活設計論(5) 住居計画学(5) 住居管理学(5) 食品材料学(5) 食品鑑別論(5) 調理科学(5) 服飾デザイン論(5) 家族関係学(6) 家族心理学(6) 家庭機械及び家庭電気(6)</p>
<p>6) 中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的な知識が身に付いている</p>	<p>中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的な知識が身に付いており、先行研究の検索と考察に基づいて研究課題を適切に設定することができる</p>	<p>中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的な知識が身に付いており、これに基づいて先行研究を検索することができる</p>	<p>中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的な知識が身に付いている</p>	<p>住居学(3) 生涯発達学(3) 住居環境学(4) 食物学実験(5)</p>

○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を収集し、読解し、結論を導き出すことができる	中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を幅広く適切に収集し、十分に読解し、総合的かつ実践的視点に立ち優れた結論を導き出すことができる	中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を適切に収集し、十分に読解し、適切な結論を導き出すことができる	中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を収集し、読解し、結論を導き出すことができる	家庭科教育研究法(6)
2) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、分析・検討し、問題点を把握し、解決策を導き出すことができる	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、批判的かつ的確に分析・検討し、総合的視野に立って問題点を把握し、建設的かつ実践的な解決策を導き出すことができる	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、的確に分析・検討し、十分に問題点を把握し、適切な解決策を導き出すことができる	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、分析・検討し、問題点を把握し、解決策を導き出すことができる	家庭科教育方法・評価論(4)
3) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、文献や資料を吟味・検討し、解決策を導き出すことができる	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、批判的かつ的確に文献や資料を吟味・検討し、建設的かつ実践的な解決策を導き出すことができる	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、十分に文献や資料を吟味・検討し、適切な解決策を導き出すことができる	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、文献や資料を吟味・検討し、解決策を導き出すことができる	人間生活(家庭科)教育概論(3) 家庭科授業論Ⅱ(5) 人間生活教育史(6)
4) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとに適切にまとめ、総合的批判的に読解することができる	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとに適切にまとめ読解することができる	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる	フードスペシャリスト論(2) 調理学実習Ⅰ(3) 人間生活調査法(5) 住居設計演習Ⅰ(5) フードコーディネータ論(6)

5) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、十分に分析・検討することができる	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、分析・検討することができる	生活経営学(2) 生活設計論(5)
6) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、批判的に吟味・検討することができる	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、吟味・検討することができる	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、吟味・検討することができる	生活経営学(2) 生活設計論(5)

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを分析し、デザインし、立案することができる	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを批判的に分析し、適切にデザインし、立案することができる	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを十分に分析し、デザインし、立案することができる	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを分析し、デザインし、立案することができる	家庭科教材構成論(3)
2) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を分析し、開発することができる	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を批判的に分析し、適切に開発することができる	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を十分に分析し、開発することができる	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を分析し、開発することができる	人間生活(家庭科)教育演習(5)

<p>3) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を身につけることができる</p>	<p>人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を確実に身につけ、効果的に使用するとともに、創造的に活用することができる</p>	<p>人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を確実に身につけ、効果的に使用、発揮することができる</p>	<p>人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を確実に身につけ、実際に使用できる</p>	<p>色彩論(2) 調理学実習Ⅰ(3) 設計製図(3) アパレル設計学実習Ⅰ(4) 調理学実習Ⅱ(4) 保育学(5) アパレル設計学実習Ⅱ(5) 服飾デザイン論(5) インテリア計画(5) 住居設計演習Ⅱ(6) アパレル科学実験(6)</p>
<p>4) 中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる</p>	<p>中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を総合的に分析・検討し、その意義を的確に示すことができる</p>	<p>中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる</p>	<p>中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を計画 ・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる</p>	<p>人間生活調査法(5) 食品鑑別論(5) 食物学実験(5)</p>

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 個人やチームにおいて、調査・実験等の研究を企画・立案し、効果的に実行し、その成果をまとめることができる (研究力)	個人やチームにおいて、調査・実験等の研究を適切に企画・立案し、効果的に実行し、その成果をまとめることができる	個人やチームにおいて、調査・実験等の研究を企画・立案し、効果的に実行し、その成果をまとめることができる	個人やチームにおいて、調査・実験等の研究を企画・立案し、実行し、その成果をまとめることができる	人間生活調査法(5) 住居設計演習Ⅰ(5) 住居設計演習Ⅱ(6) アパレル科学実験(6) 卒業論文(8)
2) 研究や教育活動、および発表において、コミュニケーションを確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いてプレゼンテーションすることができる (コミュニケーション・プレゼンテーション力)	研究や教育活動、および発表において、コミュニケーションを十分に確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いて的確にプレゼンテーションすることができる	研究や教育活動、および発表において、コミュニケーションを十分に確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いてプレゼンテーションすることができる	研究や教育活動、および発表において、コミュニケーションを確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いてプレゼンテーションすることができる	家庭科授業論Ⅰ(2) 人間生活 (家庭科)教育演習(5)
3) インターネット、データベース、表計算、ワープロといった IT を使用できるとともに、IT を用いて、基礎的な統計処理や表現ができる (IT 活用力)	インターネット、データベース、表計算、ワープロといった IT を使いこなせるとともに、IT を用いて、基礎的な統計処理や表現が適切にできる	インターネット、データベース、表計算、ワープロといった IT を使いこなせるとともに、IT を用いて、基礎的な統計処理や表現ができる	インターネット、データベース、表計算、ワープロといった IT を使用できるとともに、IT を用いて、基礎的な統計処理や表現ができる	情報処理(4)
4) 多くの人々と協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている (社会性・協同性)	多くの人々と協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを適切に作り出したり改善したりする態度をもっている	多くの人々と協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている	多くの人々と協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている	調理学実習Ⅱ(4) フードコーディネート論(6)

担当教員リスト

担当教員名	担当授業科目等	備考
柴 静 子	担当授業科目：人間生活（家庭科）教育概論 家庭科授業論Ⅱ 家庭科教育研究法 人間生活教育史 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 7 0 4 E-mail アドレス：	
平 田 道 憲	担当授業科目：生活経営学 生活設計論 人間生活調査法 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 5 0 2 E-mail アドレス：	
横 田 明 子	担当授業科目：生活経済学 消費生活論 家族関係学 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 6 0 5 E-mail アドレス：	
木 下 瑞 穂	担当授業科目：アパレル素材学 色彩論 アパレル科学実験 情報処理 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 6 1 0 E-mail アドレス：	

鈴木 明子	担当授業科目：生涯活動教育論 家庭科教材構成論 人間生活（家庭科）教育演習 家庭科授業論 I 家庭科教育方法・評価論 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 7 0 7 E-mail アドレス：	
今 川 真 治	担当授業科目：保育学 生涯発達学 家族心理学 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 6 0 3 E-mail アドレス：	
松 原 主 典	担当授業科目：食生活栄養学 フードスペシャリスト論 食品科学 食品材料学 食物学実験 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 5 0 4 E-mail アドレス：	
村 上 か お り	担当授業科目：アパレル設計学実習 I アパレル設計学実習 II アパレル管理科学 アパレル設計学 服飾デザイン論 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 6 0 7 E-mail アドレス：	
高 田 宏	担当授業科目：住居環境学 住居計画学 設計製図 住居設計演習 I 住居設計演習 II 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 7 0 2 E-mail アドレス：	

海 切 弘 子	担当授業科目：食品鑑別論 調理科学 フードコーディネート論 研究室の場所：教育学部 B 棟 5 0 7 E-mail アドレス：	
某 1 (非常勤)	担当授業科目：家庭看護学	
某 2 (非常勤)	担当授業科目：住居学	
某 3 (非常勤)	担当授業科目：児童保健学	
某 4 (非常勤)	担当授業科目：住居管理学	
某 5 (非常勤)	担当授業科目：インテリア計画	
某 6 (非常勤)	担当授業科目：家庭機械及び家庭電気	
某 7 (非常勤)	担当授業科目：調理学実習 I	
某 8 (非常勤)	担当授業科目：調理学実習 II	
他プログラム科目	担当授業科目：建築材料 建築一般構造 建築構造力学 I 建築行政 建築施工 建築設備 I 建築設備 II 建築生産マネジメント 食品衛生学 農産食品学	